

COP17 サイドイベント傍聴報告

2011年12月6日

社団法人海外環境協力センター (OECC)

本傍聴報告は、2011年11月28日～12月9日に南ア・ダーバンで開催中の国連気候変動枠組条約第17回締約国会議 (COP17) において併催されたサイドイベントの傍聴記録です。

- タイトル: 「CDM 政策対話」設置について ("Launching of the CDM Policy Dialogue".)

- 日時: 2011年12月3日 (土曜) 14:00-15:00
- 主催: UNFCCC 事務局、CDM 理事会
- 会場: Durban Exhibition Center, Amenzimtoti River
- スピーカー: クリステアーナ・フィゲレス (UNFCCC 事務局長)、マーティン・ヘッション (CDM 理事会議長)、他 UNFCCC 事務局等

■ 概要

CDM 理事会は今年10月開催の第64回会合 (CDM EB64) で、ハイレベルパネリスト12名による CDM 制度への政策対話委員会 (Policy Dialogue)」を設置することを決定。本サイドイベントでは、その構成メンバーの紹介と組織概要について発表がなされた。

冒頭、UNFCCC 事務局より、対話始動に向けて現在、構成メンバーの選考が行われている旨報告がなされ、これまでの決定メンバー7名¹が発表された。

その後、クリステアーナ・フィゲレス事務局長が、組織概要について説明。CDM 政策対話の設置目的は、2012年以降に向けてこれまでの CDM 制度の取り組みについて外部から

¹ 現在、中国、インド、ブラジル、英国、南アフリカ、ジンバブエ、エクアドルから1名ずつ選出されている (2011年12月3日時点)

名前	タイトル
ヨランダ・カカバドス (Yolanda Kakabadse)	世界自然保護基金(WWF)理事長(エクアドル)
プロディプト・ゴッシュ (Prodipto Ghosh)	エネルギー資源研究所(TERI)特別研究員(インド)
ルシアノ・コウティンホ (Luciano Coutinho)	ブラジル開発銀行総裁(ブラジル)
夏光(Xia Guang)	中国国家環境保護総局環境経済政策研究センター所長(中国)
ポール・シンプソン (Paul Simpson)	カーボンディスクロージャー代表取締役(英国)
モハメド・ヴァリ・モオサ (Mohammed Valli Moosa)	世界自然保護基金(WWF)議長(南アフリカ)
マーガレット・ムカハナナ・サンガルバ (Margaret Mukahanana-Sangarwe)	AWG-LCA共同議長兼観光サービス業省事務次官(ジンバブエ)

出所: UNFCCC 事務局発表資料を基に作成

の意見を反映しながら改善していくことであるとして、構成メンバーについては、「偏りのないよう、市民社会団体や、民間企業、産業界、ならびに政府官僚など幅広い層からバランスよく選出する」と述べた。一方で、意見の極端化を避けるため、「市場関係者からの選出は控える」とも述べた。

フィゲレス事務局長は、CDM 制度の質を高めるために、CDM は（審査作業が）遅すぎる、複雑すぎる、CDM 理事会の体制は不十分である、といった批判を歓迎し、CDM をめぐる意見のギャップ（good と bad）を解決する（good を増やし、bad を修正する）必要があると述べ、政策対話委員会がこうした外部セクターの意見を「mobilize（結集）する」役割を果たすはずだとの期待を示した。

また、マーティン・ヘッション CDM 理事会議長が、政策対話の進め方について説明。UNFCCC 事務局の支援の下、本委員会が、会合やワークショップ、現地訪問や調査などを通じて得られた意見を政策提言としてまとめ、CDM 理事会に提出。CDM 理事会はそれを基に来年末の COP18 提出用に作成する CDM 改訂案に活用することになると述べた。政策提言は一般公開される。

*UNFCCC事務局では、2011年10月27日～2012年1月16日にかけて政策対話の対象課題に関するパブリックコメントを受付中。

（詳しくは→http://cdm.unfccc.int/public_inputs/2011/EB65/01/index.html）

■ 質疑応答

質疑応答では、構成メンバーとして「市場関係者からの選出は控える」としたフィゲレス事務局長の発言に対し、「(一般的に CDM 開発の擁護者である) 市場参加者の選出を避けるというが、決定メンバーには CDM 開発に批判的な環境団体からのメンバーがいるのは不公平ではないか」といった、メンバーの構成バランスについて疑問視する意見が数名の傍聴者から出された。

これに対し、CDM 理事会議長はあくまで対話を重視しており、最終メンバーを見てもらえばわかると思うが、バランスを重視する。また、批判的意見に対しては、弊害ではなく、今後の CDM について重要であると考えていると回答した。

(報告者 : OECC 古宮祐子)

サイドイベント傍聴報告については以下をご覧ください。

日本語版 http://www.mmechanisms.org/relation/details_oecc_COP17report.html